



IXIL リビング建材 オープン用金属手すり<ラウンド用> 取付け説明書

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 思わぬケガや事故につながりますので、下記事項をお守りください。
 - ・当商品は屋内専用です。屋外や浴室内などに使用しないでください。
 - ・店舗など使用頻度の激しい所では使用しないでください。
 - ・ラウンド手すりは壁固定部材、接続ブラケット、スタート端部部材、吹抜端部部材の奥まで差込んで固定してください。奥まで差込んでいないとラウンド手すり脱落の原因になるおそれがあります。
 - ・ねじを固定する際には、指定の下穴をあけてください。下穴をあけないと材割れ・取付け強度不足により手すり脱落の原因になるおそれがあります。
 - ・接続金具は親柱間隔以内に1個を親柱芯より60mm以内に取付けてください。
 - ・壁と支柱や支柱同士の間の内々寸法は110mm未満にしてください。

■取付け前の確認

【検品について】●納入時に各部材を必ず検品してください。万一、製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(取付け完了後の色調・キズなどによる交換はできません。)

■目次

■階段用 1/12 ~ 6/12 ■吹抜け用 7/12 ~ 12/12

■階段用

■取付け上のお願い

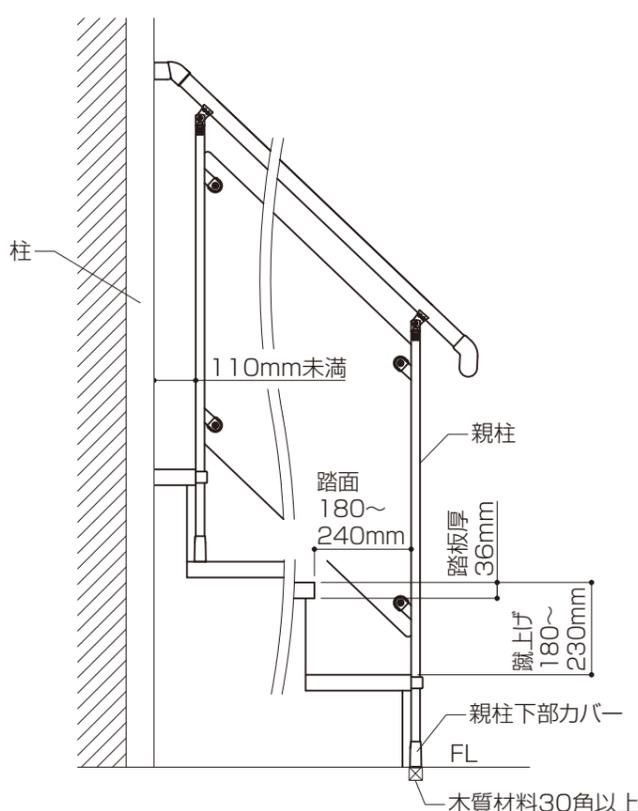
【取付け時の確認】

- 本製品の組立て・取付け時にはクラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転・ねじの頭がとぶ・ねじ頭がつぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱のねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、部材の垂下がり・ゆがみ・踏み鳴りなどの原因となります。
- パネルタイプの階段用手すりと吹抜け用手すりを直行して取付ける場合、吹抜け用手すりを先に取付けてください。階段用手すりを先に取付けると吹抜け用手すりのパネルが取付けできません。
- 階段用手すりを廊下、踊り場、吹抜け部などの水平部分に取付けることはできません。
- 木造在来、2×4用です。鉄骨造納まりには直接対応しておりませんので、補強材(梁・大引きの代用となるもの)を施工部位の間に取付けてください。
- 踏板の段鼻形状がR形状の階段には取付けることができません。
- 樹脂パネルはガラスに比べ、キズ・擦れ・汚れなどが付きやすい材料です。取扱いには十分注意してください。

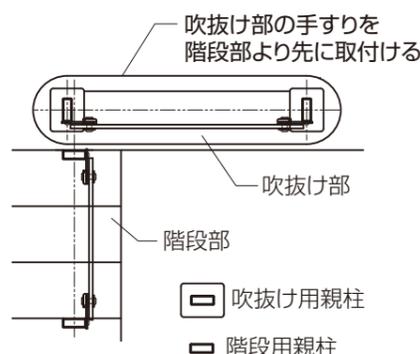
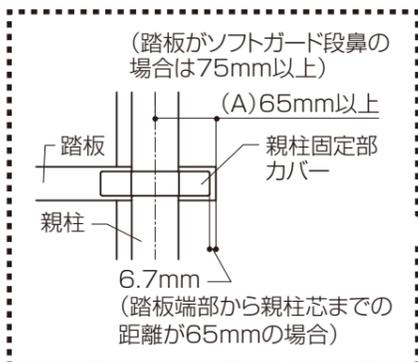
【寸法・構造・その他の確認】

●以下の寸法を守って取付けしてください。

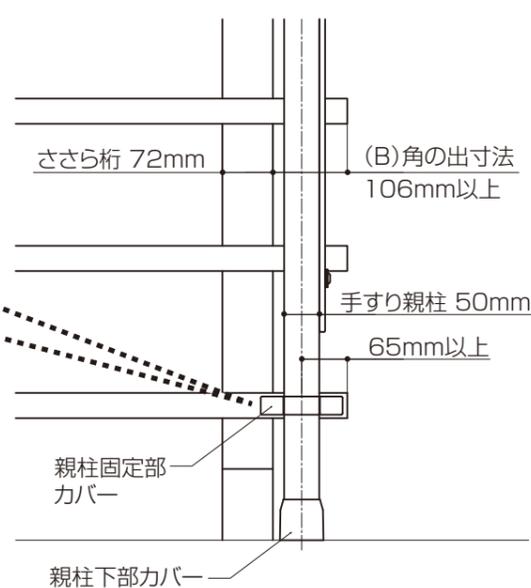
階段側面図



- ・階段踏板端部より親柱センターまで(A)
- ・ささら桁の角の出寸法(B)



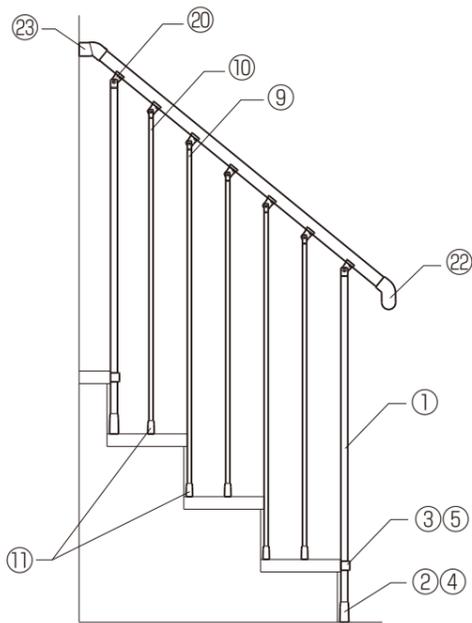
階段正面図(ささら桁納まりの場合)



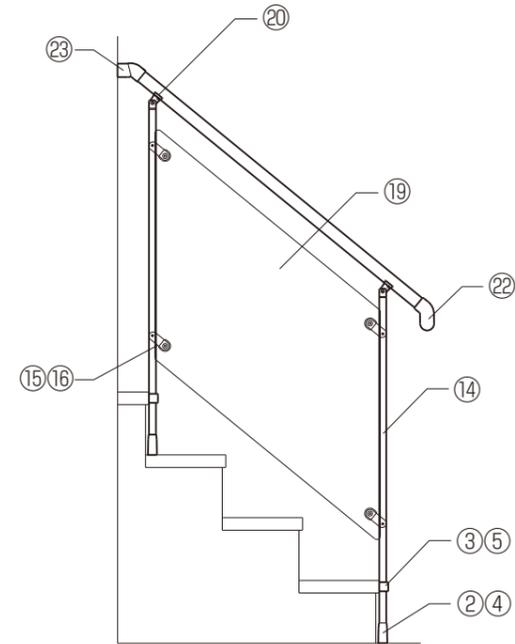
※手すりと壁が隣接する場合、施工するためのスペースが400mm以上必要です。

■各部の名称と梱包セット内容

■階段用縦棧タイプ
(4段上り切り)



■階段用パネルタイプ
(4段上り切り)



製品名称	部品名称	数量	備考
縦棧タイプ 親柱 2本セット	① 縦棧タイプ親柱	2本	
	② 親柱下部カバー	2個	
	③ 親柱固定部カバー	2個	
	④ 親柱下部ベース	2個	
	⑤ 親柱固定部品	2個	
	⑥ 親柱用首振固定用ねじ	2本	ばね座金組込小ナベM5×12
	⑦ 親柱固定用ねじセット	2セット	ナベTPφ4.5×30 6本×2 小トラスM5×12 2本×2
	⑧ 手すり固定用ねじ	4本	丸皿TPφ3.5×20
縦棧タイプ 親柱 3本セット	① 縦棧タイプ親柱	3本	
	② 親柱下部カバー	3個	
	③ 親柱固定部カバー	3個	
	④ 親柱下部ベース	3個	
	⑤ 親柱固定部品	3個	
	⑥ 親柱用首振固定用ねじ	3本	ばね座金組込小ナベM5×12
	⑦ 親柱固定用ねじセット	3セット	ナベTPφ4.5×30 6本×3 小トラスM5×12 2本×3
	⑧ 手すり固定用ねじ	6本	丸皿TPφ3.5×20
縦棧タイプ 子柱 3本セット	⑨ 子柱(L991)	1本	ガタツキ防止キャップ付き
	⑩ 子柱(L877)	2本	ガタツキ防止キャップ付き
	⑪ 子柱下カバー	3個	
	⑫ 子柱用首振固定用ねじ	3本	小ナベM5×12
	⑬ 子柱固定用ねじ	3本	ナベTPφ4.5×30
	⑭ 手すり固定用ねじ	6本	丸皿TPφ3.5×20
縦棧タイプ 子柱 5本セット	⑨ 子柱(L991)	2本	ガタツキ防止キャップ付き
	⑩ 子柱(L877)	3本	ガタツキ防止キャップ付き
	⑪ 子柱下カバー	5個	
	⑫ 子柱用首振固定用ねじ	5本	小ナベM5×12
	⑬ 子柱固定用ねじ	5本	ナベTPφ4.5×30
	⑭ 手すり固定用ねじ	10本	丸皿TPφ3.5×20

製品名称	部品名称	数量	備考	
共通部品	ラウンド用 首振ブラケット 1個入り	⑳ ラウンド用 首振ブラケット	1個	
	ラウンド用 首振ブラケット 2個入り	㉑ ラウンド用 首振ブラケット	2個	
	接続ブラケット	㉒ 接続ブラケット	1個	丸皿TPφ3.5×20 2本 テクスねじφ4×19 1本
	スタート端部部材	㉓ スタート端部部材	1個	丸皿TPφ3.5×20 2本
	壁固定部材	㉔ 壁固定部材	1個	丸皿TPφ3.5×20 1本 皿TPφ3.5×40 1本

製品名称	部品名称	数量	備考
縦棧タイプ 親柱 端部用 2本セット	⑭ パネルタイプ親柱	2本	
	② 親柱下部カバー	2個	
	③ 親柱固定部カバー	2個	
	④ 親柱下部ベース	2個	
	⑤ 親柱固定部品	2個	
	⑥ 親柱用首振固定用ねじ	2本	ばね座金組込小ナベM5×12
	⑦ 親柱固定用ねじセット	2セット	ナベTPφ4.5×30 6本×2 小トラスM5×12 2本×2
	⑧ 手すり固定用ねじ	4本	丸皿TPφ3.5×20
縦棧タイプ 親柱 端部用 2本セット	⑮ パネル取付け用 スペーサー1	1セット	パネル取付け用スペーサー1 4枚 小ナベM5×12 4本
	⑯ パネル緩衝材 スペーサー	1セット	パネル緩衝ゴム 4個 パネル緩衝ゴム用ワッシャー 4個 パネル緩衝材スペーサー 4個 ボルト用スペーサー 4個 セットキャップボルト 4本 セットキャップカバー 4個
	⑭ パネルタイプ親柱	3本	
	② 親柱下部カバー	3個	
縦棧タイプ 親柱 端部用 3本セット	③ 親柱固定部カバー	3個	
	④ 親柱下部ベース	3個	
	⑤ 親柱固定部品	3個	
	⑥ 親柱用首振固定用ねじ	3本	ばね座金組込小ナベM5×12
	⑦ 親柱固定用ねじセット	3セット	ナベTPφ4.5×30 6本×3 小トラスM5×12 2本×3
	⑧ 手すり固定用ねじ	6本	丸皿TPφ3.5×20
	⑮ パネル取付け用 スペーサー1	1セット	パネル取付け用スペーサー1 4枚 小ナベM5×12 4本
	⑰ パネル取付け用 スペーサー2	1セット	パネル取付け用スペーサー2 2枚 小ナベM5×12 2本
縦棧タイプ 親柱 端部用 3本セット	⑯ パネル緩衝材 スペーサー	2セット	パネル緩衝ゴム 4個×2 パネル緩衝ゴム用ワッシャー 4個×2 パネル緩衝材スペーサー 4個×2 ボルト用スペーサー 4個×2 セットキャップボルト 4本×2 セットキャップカバー 4個×2
	⑭ パネルタイプ親柱	2本	
	② 親柱下部カバー	2個	
	③ 親柱固定部カバー	2個	
縦棧タイプ 親柱 中間用 2本セット	④ 親柱下部ベース	2個	
	⑤ 親柱固定部品	2個	
	⑥ 親柱用首振固定用ねじ	2本	ばね座金組込小ナベM5×12
	⑦ 親柱固定用ねじセット	2セット	ナベTPφ4.5×30 6本×2 小トラスM5×12 2本×2
	⑧ 手すり固定用ねじ	4本	丸皿TPφ3.5×20
	⑰ パネル取付け用 スペーサー2	1セット	パネル取付け用スペーサー2 4枚 小ナベM5×12 4本
	⑯ パネル緩衝材 スペーサー	2セット	パネル緩衝ゴム 4個×2 パネル緩衝ゴム用ワッシャー 4個×2 パネル緩衝材スペーサー 4個×2 ボルト用スペーサー 4個×2 セットキャップボルト 4本×2 セットキャップカバー 4個×2
	⑮ パネル2段用	⑮ パネル2段用	1枚
⑰ パネル3段用	⑰ パネル3段用	1枚	プレカット加工品

取付け順序

取り付けるタイプによって手順が異なります。

縦棧 **縦棧タイプ**

パネル **パネルタイプ**

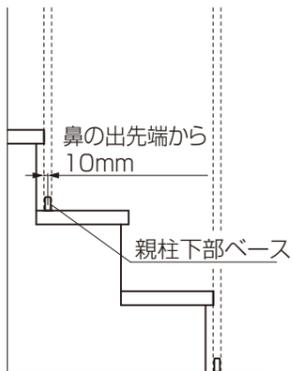
縦棧タイプ
パネルタイプ

1 親柱の割付け

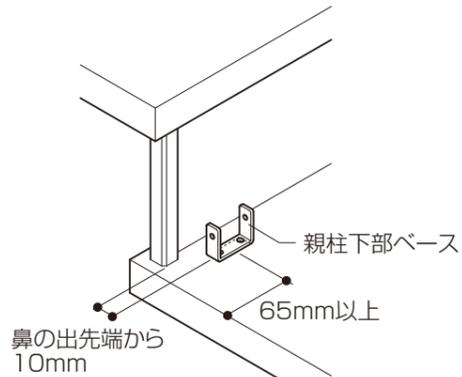
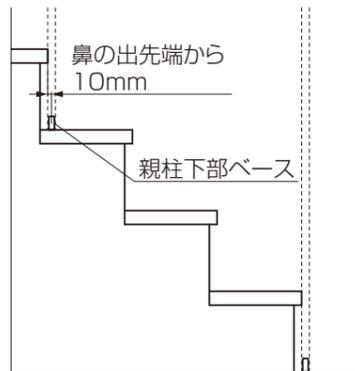
①親柱下部ベースの芯位置決めを行います。
下図のように2段ピッチと3段ピッチを組み合わせて割り付けてください。

●親柱下部ベース取付け位置(階段上面図)

■2段ピッチ



■3段ピッチ

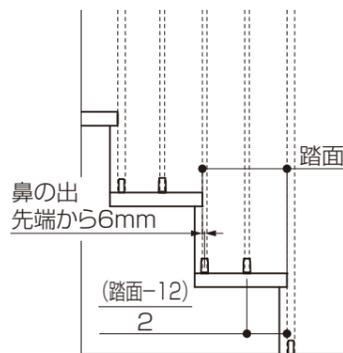


2 子柱の割付け

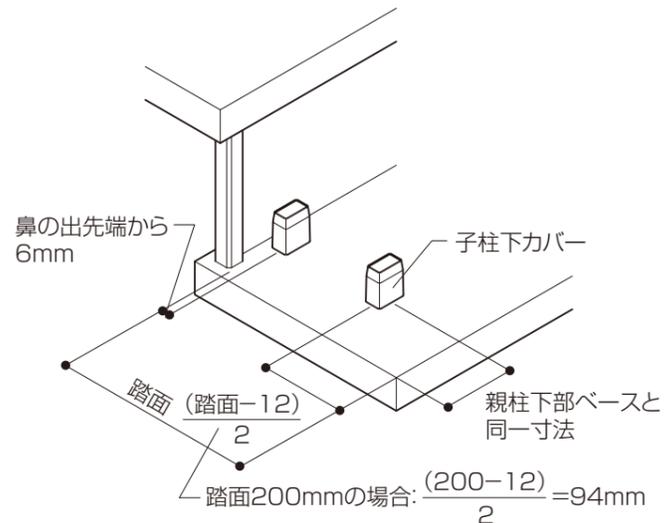
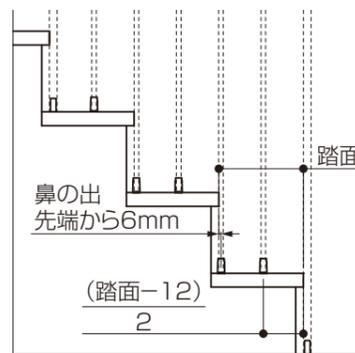
②子柱下カバーの芯位置決めを行います。親柱下部ベースの芯位置に合わせて位置決めを行います。(下図参照)

●子柱下カバー取付け位置(階段上面図)

■2段ピッチ



■3段ピッチ



縦棧タイプ
パネルタイプ

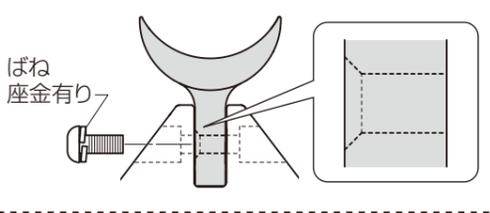
3 親柱の取付け

①ラウンド用首振ブラケット(別売)をねじ(ばね座金組込小ナベM5×12)で親柱に取付けます。

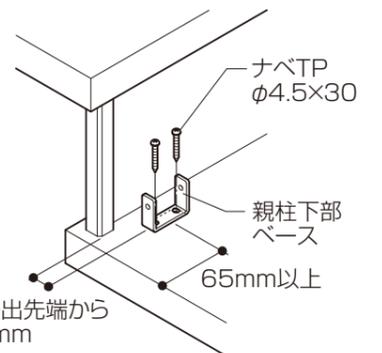


〈確認〉

●ねじはテーパ付き側から固定します。



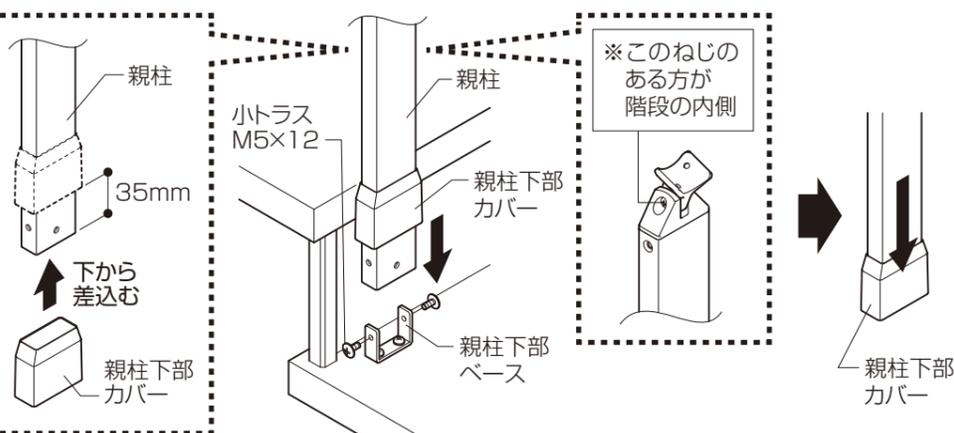
②1で決めた取付け位置に沿って下穴(φ3.5mm)をあけ、親柱下部ベースをねじ(ナベTPφ4.5×30)で固定します。



③親柱に親柱下部カバーを差込んでから、親柱を親柱下部ベースに差込みます。ねじ(小トラスM5×12)で固定したら、親柱下部カバーを下げます。

〈お願い〉

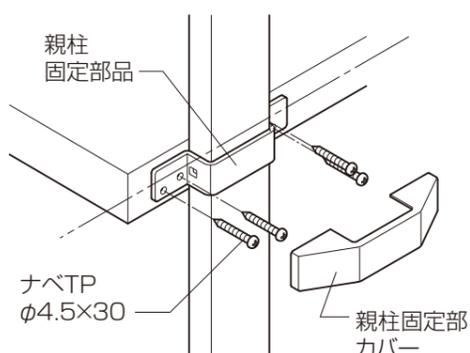
●カバーは必ず下から差し込み、35mm以上上げないでください。カバー嵌合のための内側の突起で柱が傷付くおそれがあります。



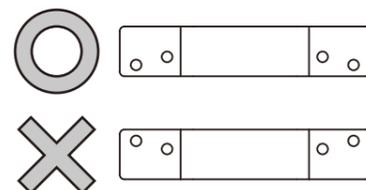
〈確認〉

●親柱には取付け方向がありますのでご注意ください。(左図の※印参照)
●親柱を踏板段鼻面に押当てて垂直になっているか確認願います。

④親柱を踏板段鼻面へ親柱固定部品であてがい下穴(φ3.5mm)をあけ、ねじ(ナベTPφ4.5×30)で固定します。固定後、親柱固定部カバーをはめ込みます。



※親柱固定部品には取付け方向がありますので、下図を参考に取付けてください。

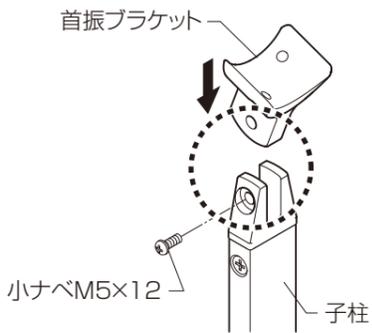


〈確認〉

●親柱の垂直を確認してから固定します。
●親柱固定部品が踏板厚の中央にくるように取付けます。

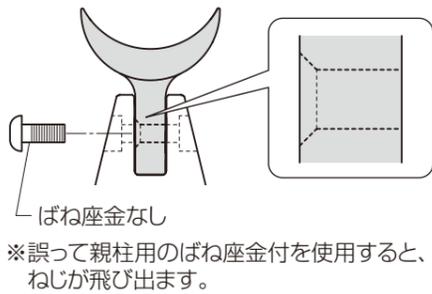
4 子柱の取付け

① ラウンド用首振ブラケット(別売)をねじ(小ナベM5×12)で子柱に取付けます。

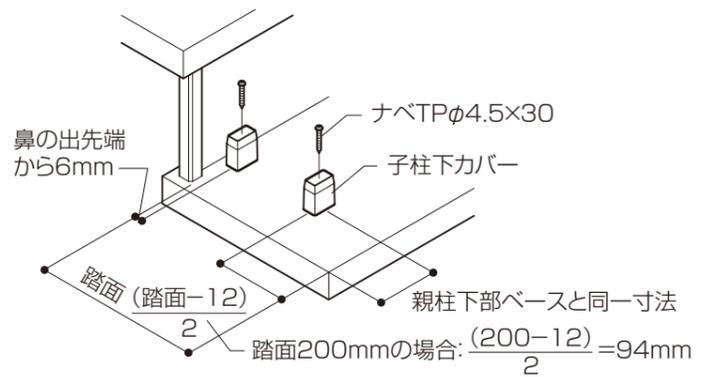


〈確認〉

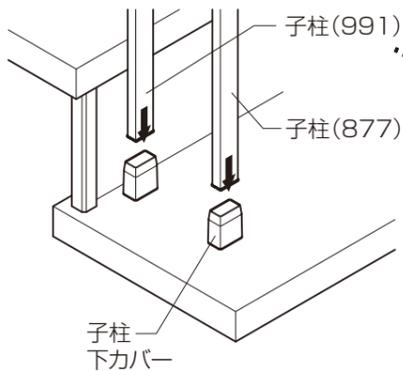
● ねじはテーパ付き側から固定します。



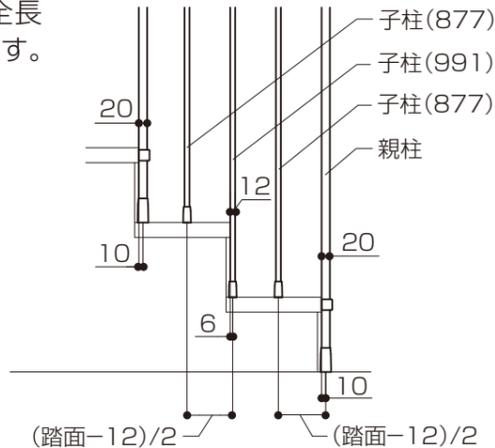
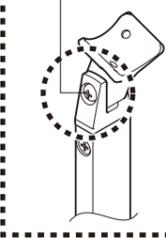
② ②で決めた取付け位置に沿って下穴(φ3.5mm)をあけてから、下カバーをねじ(ナベTPφ4.5×30)で固定します。



③ 子柱を子柱下カバーに差込みます。踏板中央部には子柱(877 全長が短い方)、踏板段鼻部には子柱(991 全長が長い方)を差込みます。



※このねじのある方が階段の内側



〈確認〉

● 子柱も親柱同様、取付け方向がありますのでご注意ください。(左図の※印参照)

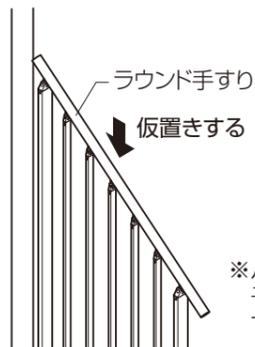
5 ラウンド手すり(φ35)の取付け

1) 壁固定部材(別売)とスタート端部材(別売)を取付ける場合

① 首振ブラケット固定ねじを全てゆるめて、角度が自由に動くようにします。

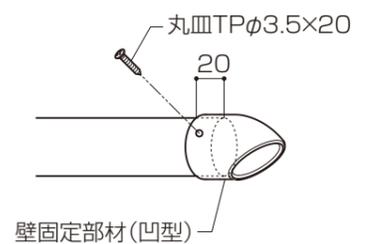


② ラウンド手すりを首振ブラケットの上に仮置きし首振ブラケットの角度を固定したら、壁固定部材とスタート端部材の取付けしろを見込んで手すりの寸法出しを行い、切断します。

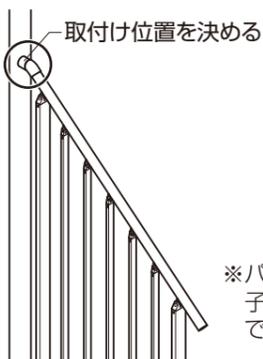


※パネルタイプは子柱がない状態です

③ ラウンド手すりの先端に壁固定部材(凹型)を差込み下穴(φ2.5mm)をあけた後、ねじ(丸皿TPφ3.5×20)で固定します。

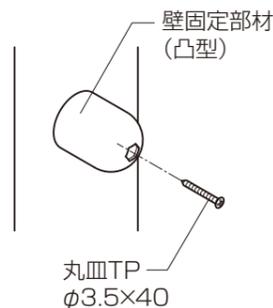


④ 壁固定部材(凸型)の取付け位置をラウンド手すりを仮置きして決めます。



※パネルタイプは子柱がない状態です

⑤ 壁に壁固定部材(凸型)をねじ(丸皿TPφ3.5×40)で固定します。



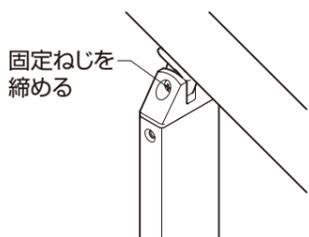
⑥ ラウンド手すりの壁固定部材(凹型)を壁面の壁固定部材(凸型)に合わせます。ラウンド手すりを首振ブラケットにのせ下穴(φ2.5mm)をあけた後、ねじ(丸皿TPφ3.5×20)で固定します。



〈お願い〉

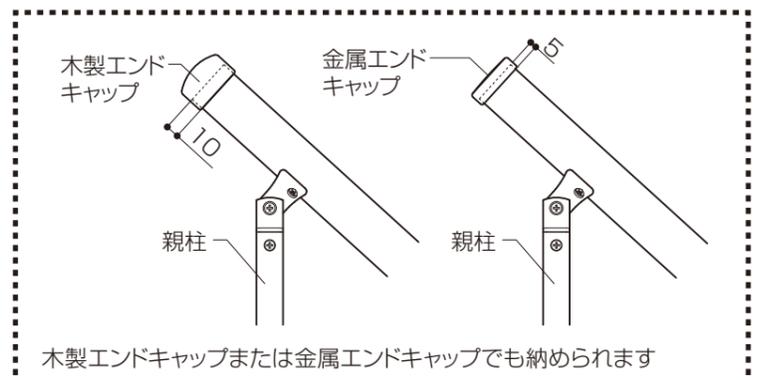
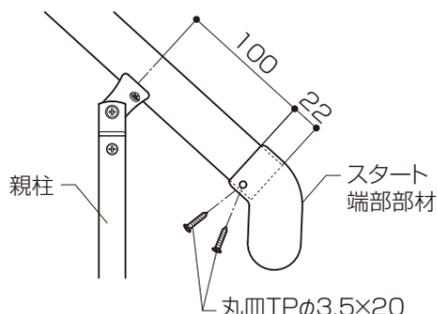
● ラウンド手すりと首振ブラケットの間にすき間が出ないように、両側から調整しながらねじを取付けます。

⑦ ラウンド手すり固定後、首振ブラケット固定ねじを全て本締めします。



※推奨トルク値: 1.4N・m~2.0N・m

⑧ 手すりの下端側にスタート端部材をはめ込み下穴(φ2.5mm)をあけた後、ねじ(丸皿TPφ3.5×20)で固定します。



木製エンドキャップまたは金属エンドキャップでも納められます

※木製エンドキャップ、金属エンドキャップの取付け方法は「手すりラウンドタイプ」の取付け説明書を参照してください。
※ラウンド手すりを接続する場合はP.6を参照してください。

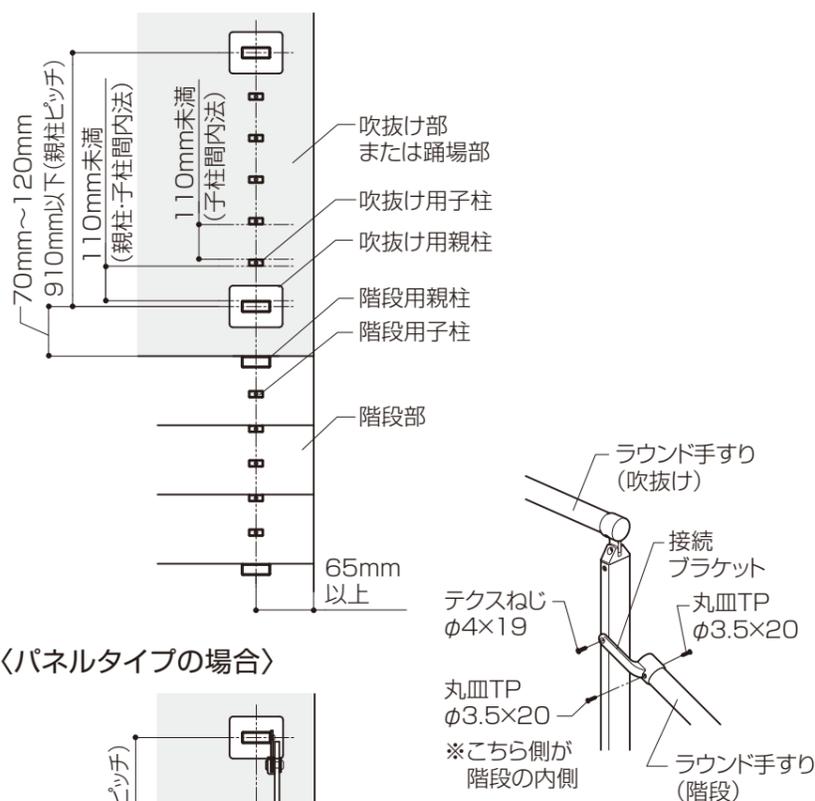
2) 吹抜け手すりと接続する場合

- ① ⑤-1)-①と同じ手順を行います。
- ② ラウンド手すりを首振ブラケットの上に仮置きしたら、接続ブラケットとスタート端部部材の取付けしろを見込んでラウンド手すりの寸法出しを行い、切断します。
- ③ ラウンド手すりの先端に接続ブラケットを差し込み下穴(φ2.5mm)をあけた後、ねじ(丸皿TPφ3.5×20)で固定します。
- ④ 接続ブラケットを吹抜け用親柱に合わせ、ラウンド手すりを首振ブラケットにのせます。下穴(φ2.5mm)をあけた後、ラウンド手すりをねじ(丸皿TPφ3.5×20)で固定します。
- ⑤ 接続ブラケットと吹抜け用親柱をねじ(テクスねじφ4×19)で固定します。
- ⑥ ⑤-1)-⑦⑧と同じ手順を行います。

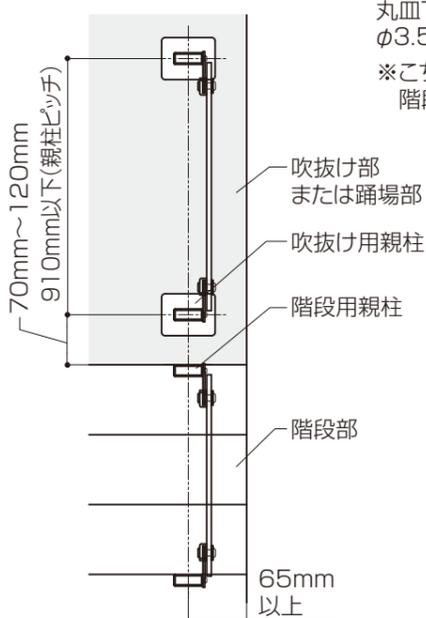
「お願い」

- ラウンド手すりと首振ブラケットの間にすき間が出ないように、両側から調整しながらねじを取付けます。

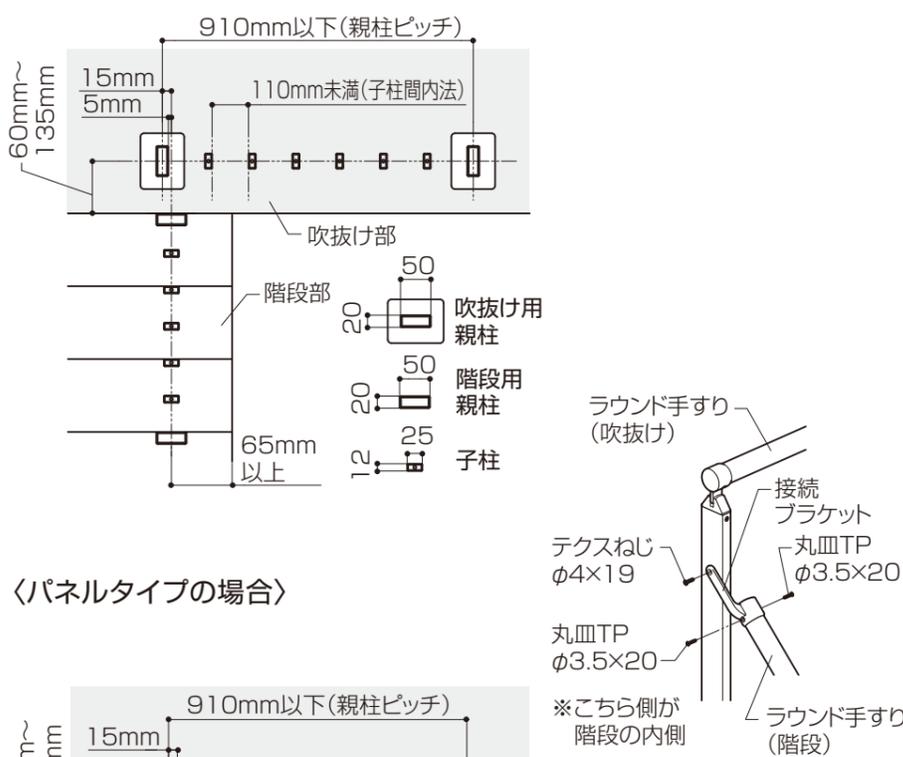
【パターン1】階段手すりが吹抜け手すりと同一直線に取付く場合 〈縦横タイプの場合〉



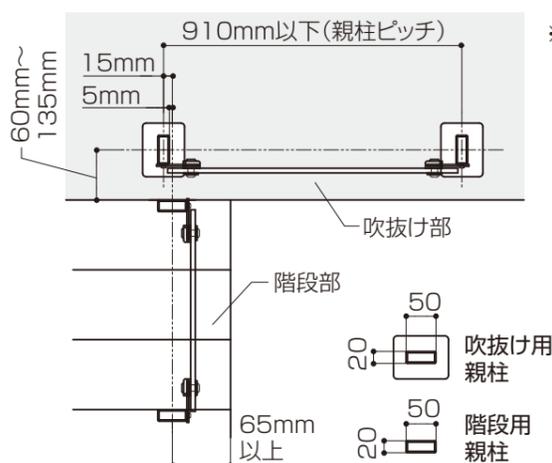
〈パネルタイプの場合〉



【パターン2】階段手すりが吹抜け手すりに直行して取付く場合 〈縦横タイプの場合〉



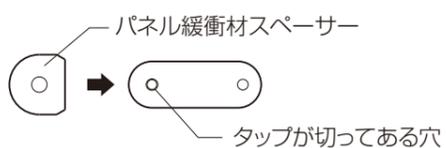
〈パネルタイプの場合〉



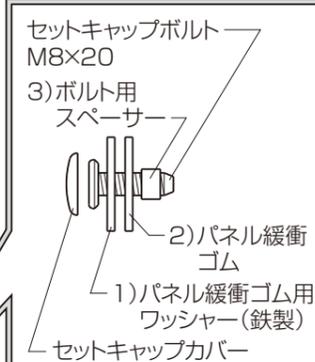
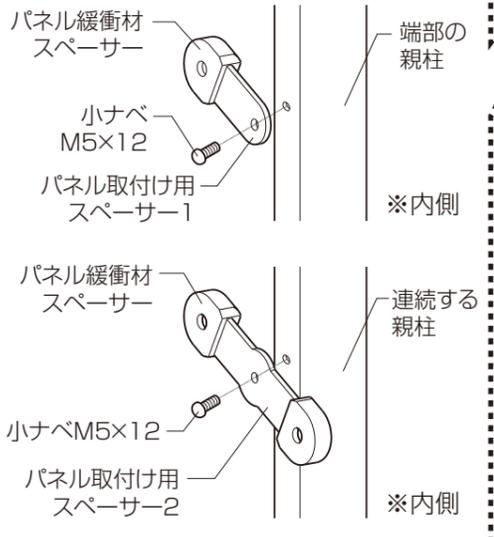
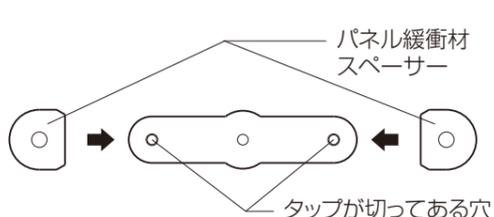
6) パネルの取付け

- ① パネル取付け用スペーサー 1、2のタップが切っている穴にパネル緩衝材スペーサーをはめ込みます。
- ② 親柱にパネル取付け用スペーサー 1、2をねじ(小ナベM5×12)で仮固定します。
- ③ セットキャップボルト(M8×20)に ① 枠の1)~3)を順にはめ込み、パネルを挟み込んで仮固定します。
- ④ パネルと親柱のすき間を見て位置調整しながら、ねじ(小ナベM5×12)、セットキャップボルト(M8×20)を本締めし、セットキャップカバーを取付けます。

● パネル取付け用スペーサー1



● パネル取付け用スペーサー2



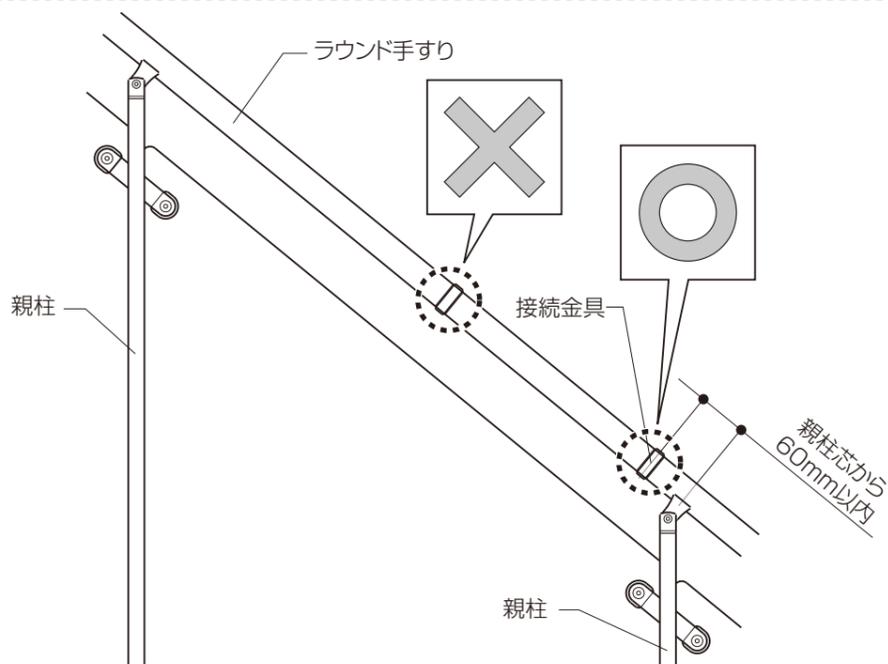
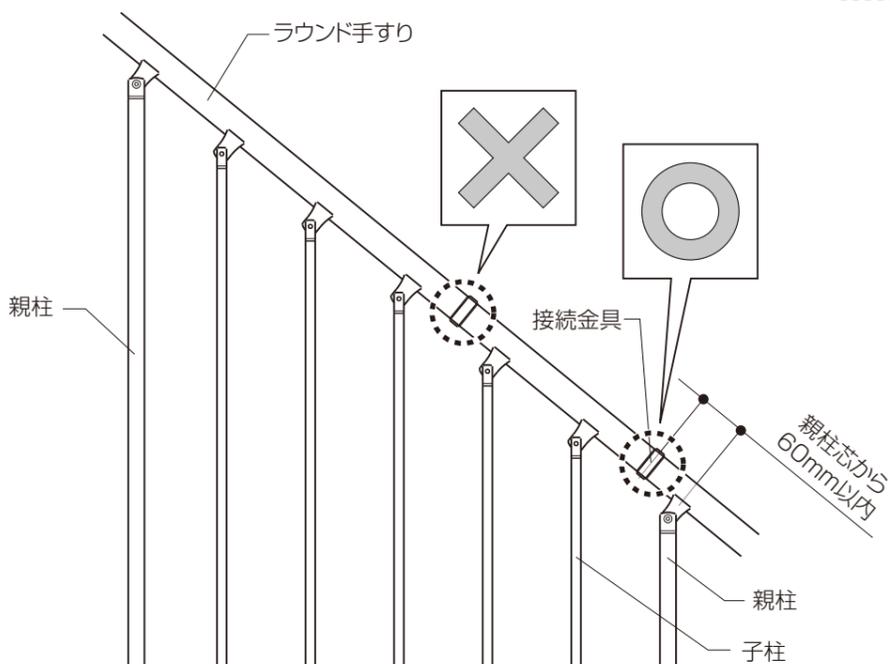
※こちら側が
階段の内側

■ ラウンド手すりを接続する場合

- 接続金具を使用して接続します。接続金具の取付け方法は「手すりラウンドタイプ」の取付け説明書を参照してください。

▲ 注意

- 接続金具は親柱間隔以内に1個を、親柱芯より60mm以内に取り付けてください。手すり脱落の原因になるおそれがあります。

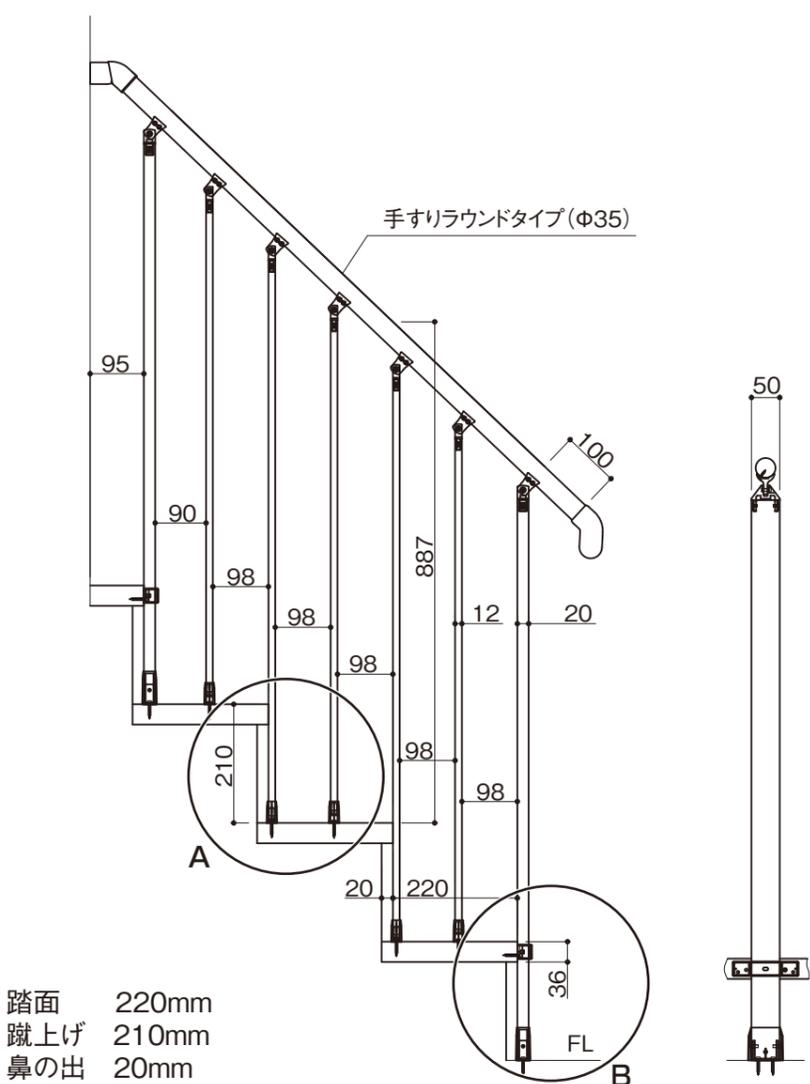


■ 取付け後の確認

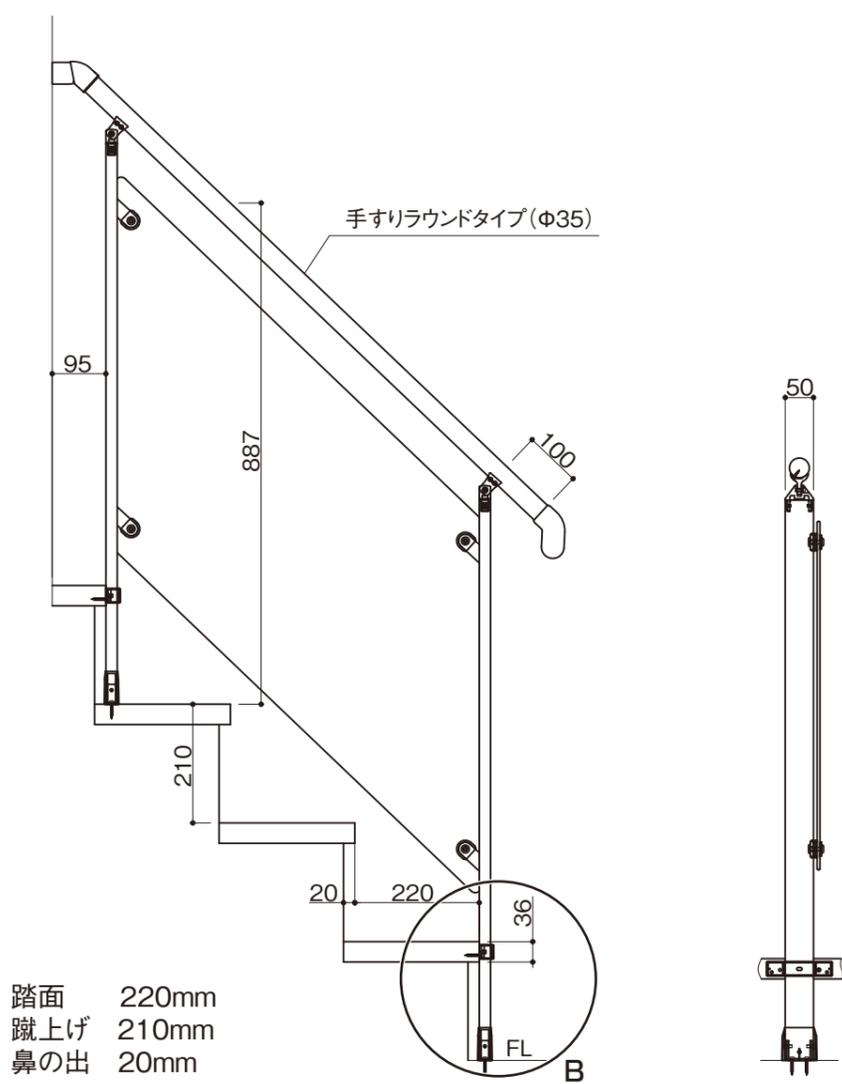
- 取付けが完了したら、手すりにガタツキがないか、ねじが確実に締結されているか確認します。ゆるみがあれば確実に締直します。

■ 参考納まり図

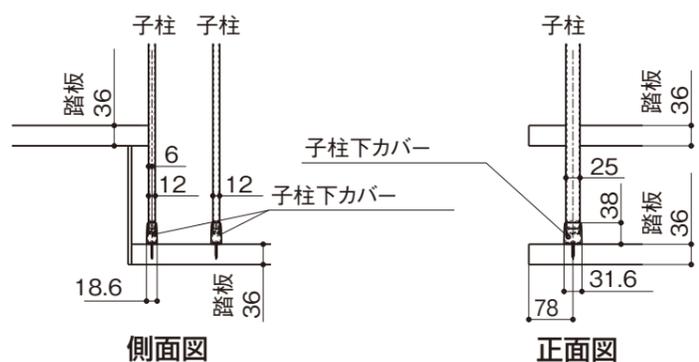
■ 縦桟タイプ(4段上り切り)



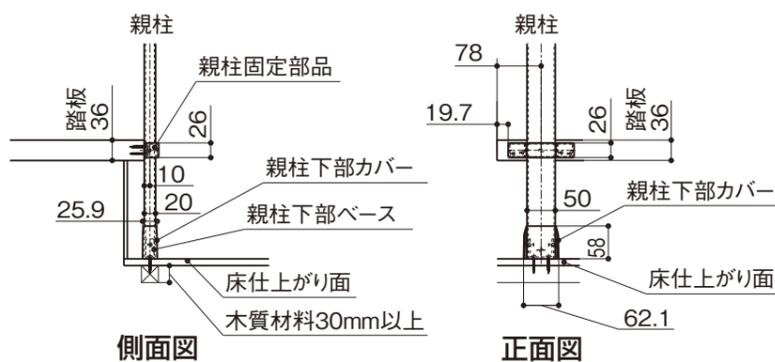
■ パネルタイプ(4段上り切り)



● A子柱と踏板の納まり



● B親柱と踏板(床部)の納まり



吹抜け用

取付け上のお願

●コーチボルト取付けの際には、ソケットレンチおよびソケット (M8頭13) をお使いください。

【寸法・構造・その他の確認】

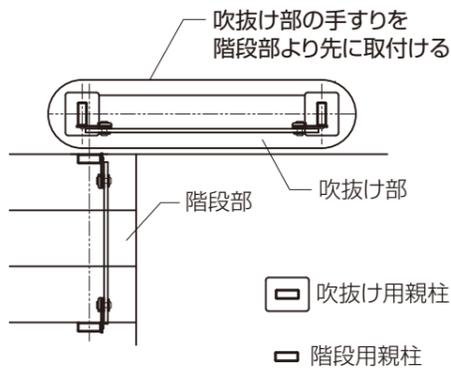
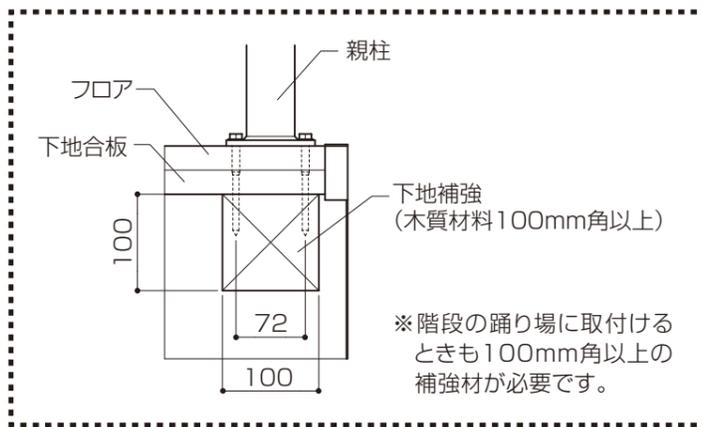
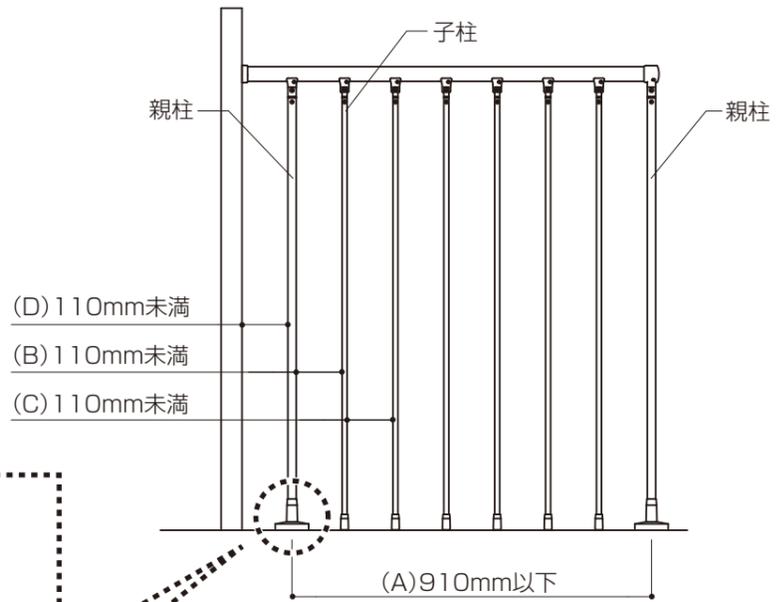
●以下の寸法を参照して取付けしてください。

●吹抜け用手すりを階段部分に取付けすることはできません。(踊り場には取付けできます。)

- ・支柱間(親柱と子柱間(B))
- ・子柱と子柱間(C)
- ・支柱と壁の間(D：壁と親柱間、壁と子柱間)

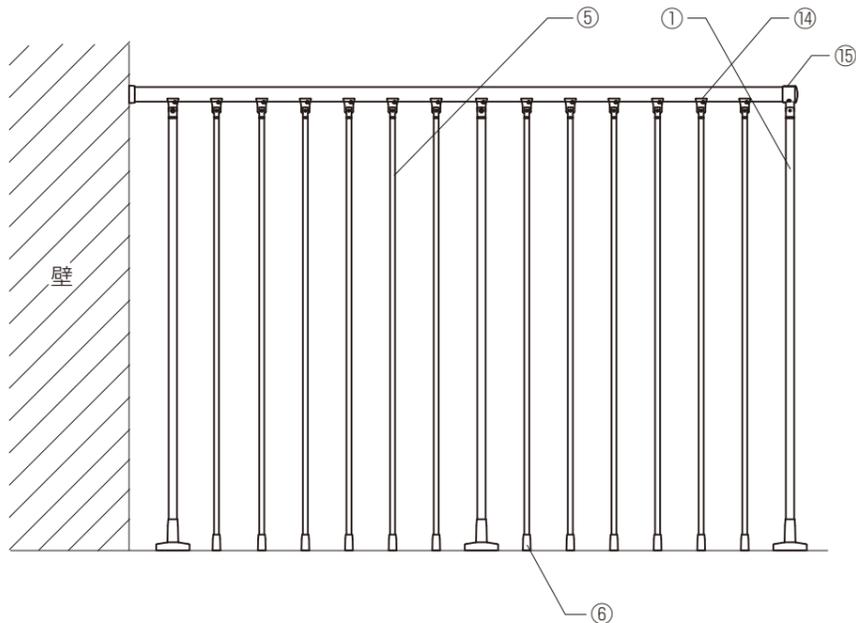
▲ 注意

●上記(B)～(D)の各内々寸法は110mm未満にしてください。
支柱の間から転落・落下事故の発生につながるおそれがあります

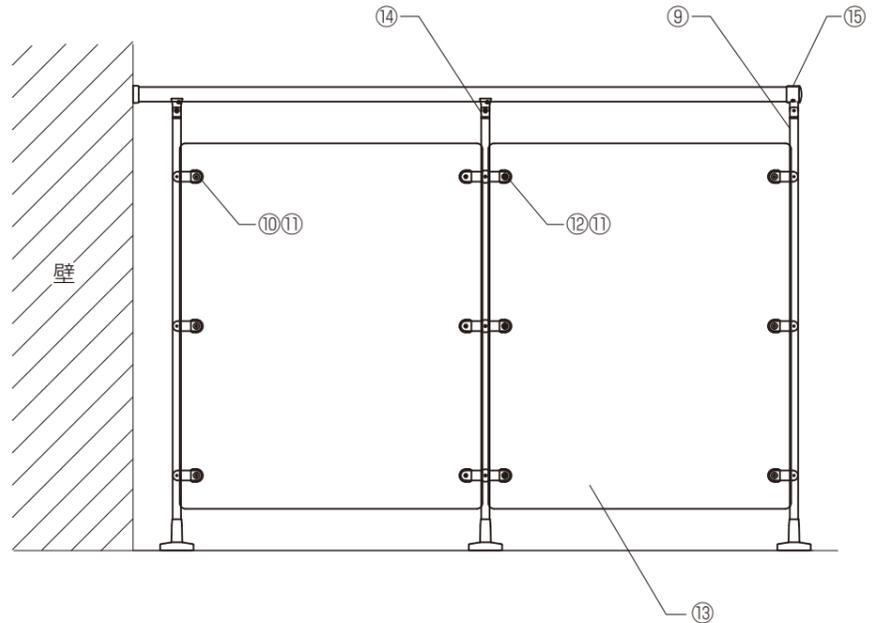


■各部の名称と梱包セット内容

■吹抜け用縦棧タイプ



■吹抜け用パネルタイプ



製品名称	部品名称	数量	備考
縦棧タイプ 親柱 1本セット	① 縦棧タイプ親柱	1本	コーチボルトM8×100 4本
	② 親柱用首振固定用ねじ	1本	ばね座金組込小ナベM5×12
	③ 親柱固定用ねじセット	1セット	コーチボルトM8×100 4本 平座金呼び径8 4個
	④ 手すり固定用ねじ	2本	丸皿TPφ3.5×20
子柱 3本セット	⑤ 縦棧タイプ子柱	3本	ガタツキ防止キャップ付き
	⑥ 子柱下カバー	3個	
	⑦ 子柱用首振固定用ねじ	3本	小ナベM5×12
	⑧ 子柱下カバー固定用ねじ	3本	ナベTPφ4.5×30
子柱 4本セット	④ 手すり固定用ねじ	6本	丸皿TPφ3.5×20
	⑤ 縦棧タイプ子柱	4本	ガタツキ防止キャップ付き
	⑥ 子柱下カバー	4個	
	⑦ 子柱用首振固定用ねじ	4本	小ナベM5×12
子柱 5本セット	⑧ 子柱下カバー固定用ねじ	4本	ナベTPφ4.5×30
	④ 手すり固定用ねじ	8本	丸皿TPφ3.5×20
	⑤ 縦棧タイプ子柱	5本	ガタツキ防止キャップ付き
	⑥ 子柱下カバー	5個	
子柱 5本セット	⑦ 子柱用首振固定用ねじ	5本	小ナベM5×12
	⑧ 子柱下カバー固定用ねじ	5本	ナベTPφ4.5×30
	④ 手すり固定用ねじ	12本	丸皿TPφ3.5×20

製品名称	部品名称	数量	備考
共通部品 ラウンド用 首振ブラケット 1個入り	⑭ ラウンド用 首振ブラケット	1個	
ラウンド用 首振ブラケット 2個入り	⑭ ラウンド用 首振ブラケット	2個	
吹抜け端部部材	⑮ 吹抜け端部部材	1個	

製品名称	部品名称	数量	備考
縦棧タイプ 親柱 端部用 1本セット	⑨ パネルタイプ 親柱	1本	
	② 親柱用首振固定用ねじ	1本	ばね座金組込小ナベM5×12
	③ 親柱固定用ねじセット	1セット	コーチボルトM8×100 4本 平座金呼び径8 4個
	④ 手すり固定用ねじ	2本	丸皿TPφ3.5×20
親柱 中間用 1本セット	⑩ パネル取付け用 スペーサー1	1セット	パネル取付け用スペーサー1 3枚 小ナベM5×12 3本
	⑪ パネル緩衝材 スペーサー	1セット	パネル緩衝材スペーサー 3個 パネル緩衝ゴム 3個 パネル緩衝ゴム用ワッシャー 3個 セットキャップカバー 3個 セットキャップボルト 3本 ボルト用スペーサー 3個
パネルタイプ 親柱 中間用 1本セット	⑨ パネルタイプ 親柱	1本	
	② 親柱用首振固定用ねじ	1本	ばね座金組込小ナベM5×12
	③ 親柱固定用ねじセット	1セット	コーチボルトM8×100 4本 平座金呼び径8 4個
	④ 手すり固定用ねじ	2本	丸皿TPφ3.5×20
親柱 追加用 1本セット	⑫ パネル取付け用 スペーサー2	1セット	パネル取付け用スペーサー2 3枚 小ナベM5×12 3本
	⑪ パネル緩衝材 スペーサー	2セット	パネル緩衝材スペーサー 3個×2 パネル緩衝ゴム 3個×2 パネル緩衝ゴム用ワッシャー 3個×2 セットキャップカバー 3個×2 セットキャップボルト 3本×2 ボルト用スペーサー 3個×2
子柱 追加用 1本セット	⑤ 縦棧タイプ子柱	1本	ガタツキ防止キャップ付き
	⑥ 子柱下カバー	1個	
	⑦ 子柱用首振固定用ねじ	1本	小ナベM5×12
	⑧ 子柱下カバー固定用ねじ	1本	ナベTPφ4.5×30
吹抜け用 パネル	⑬ 吹抜け用パネル	1枚	

取付け順序

取り付けるタイプによって手順が異なります。

縦棧 **縦棧タイプ**

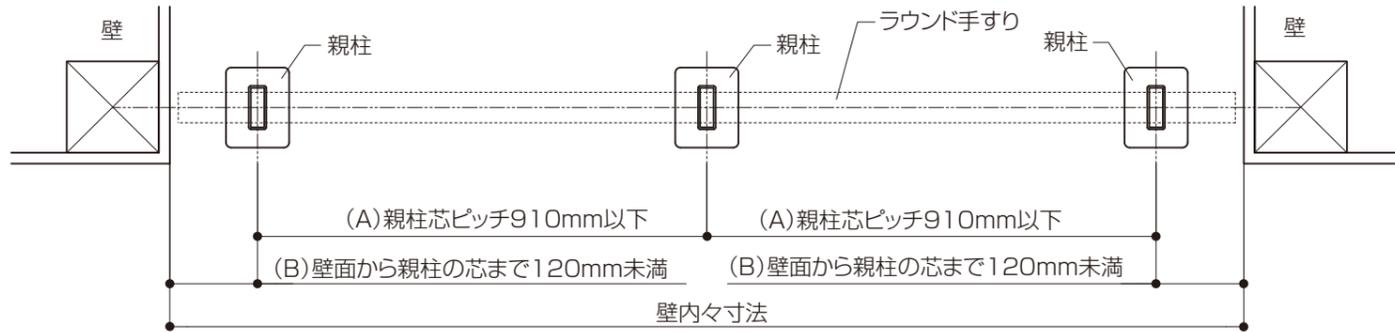
パネル **パネルタイプ**

縦棧タイプ
パネルタイプ

1 親柱の割付け

■壁と壁の間に取付ける場合

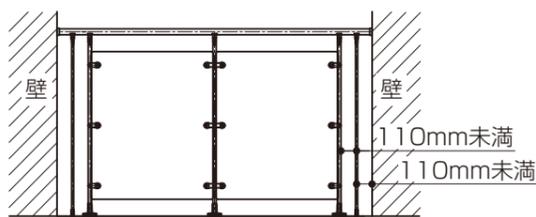
- ①親柱の取付け位置を決めます。このとき、親柱の芯ピッチ(A)は、910mm以下にするようにします。
又、壁面と親柱の芯までの距離(B)についても120mm未満にするようにします。(壁面と親柱間内々寸法は110mm未満になります。)



吹抜け側

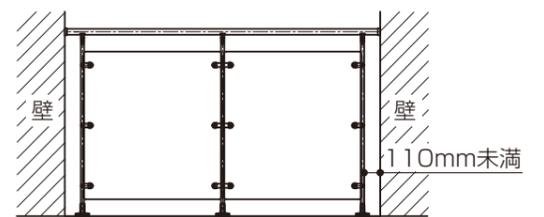
●I. 規格パネルで納めるが、親柱と壁に110mm以上のすき間が生じてしまう場合

- 壁と親柱の間に子柱を入れて、柱同士の内々寸法を110mm未満になるように納めます。



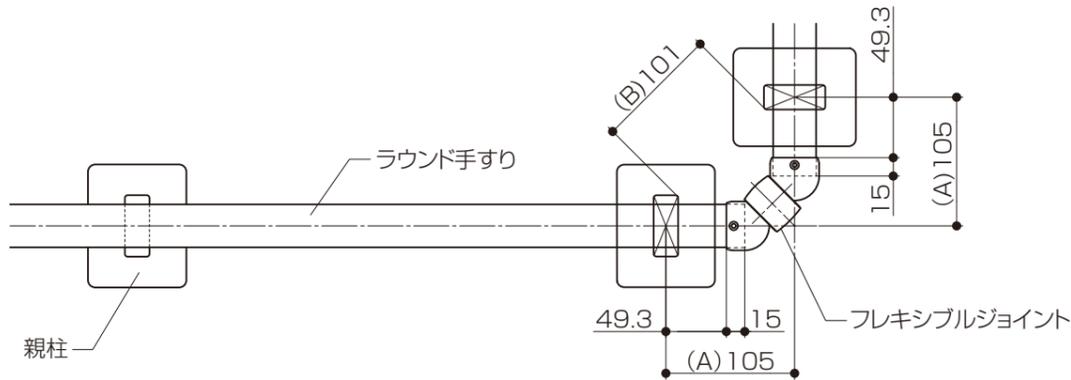
●II. 特注パネルで納める場合

- 壁と親柱間の内々寸法を110mm未満となるように納めます。



■コーナー部に取付ける場合

- 親柱の中心(A)が105mmになるようにします。このとき、親柱間のすき間(B)は101mmとなります。コーナー部にはフレキシブルジョイントを使用します。フレキシブルジョイントの取付け方法は「手すりラウンドタイプ」の取付け説明書を参照してください。

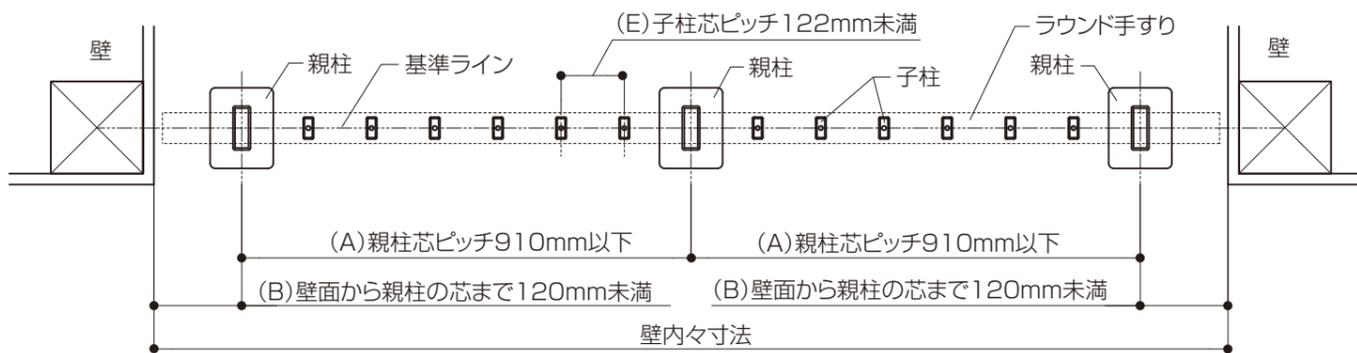


▲注意

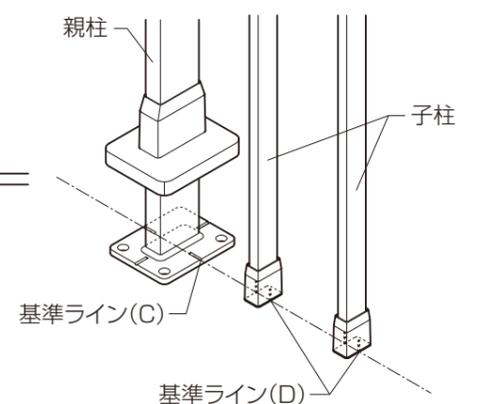
- 親柱間のすき間(B)は必ず110mm未満になるように取付けてください。転落・落下事故の発生につながるおそれがあります。

2 子柱の割付け

- ①子柱の取付け位置を決めます。親柱の基準ライン(C)と同一のラインに来るように、子柱の基準ライン(D)を合わせます。このとき、子柱の芯ピッチ(E)は122mm未満とするようにします。(子柱間内々寸法は110mm未満になります。)

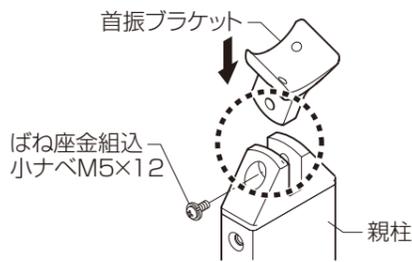


吹抜け側



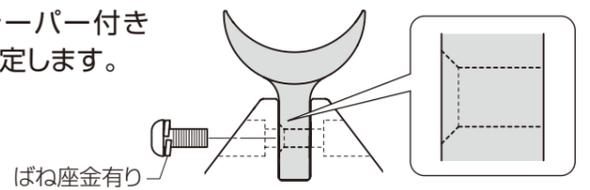
3 親柱の取付け

- ①親柱にラウンド用首振ブラケット(別売)をねじ(ばね座金組込小ナベM5×12)で取付けます。
(端部に吹抜端部部材を使用する場合、端部の親柱には、取り付けしません。)



〈確認〉

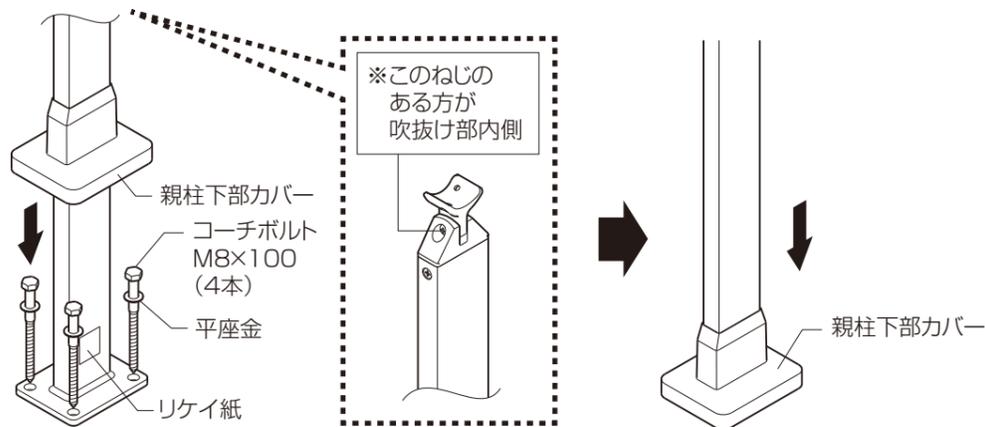
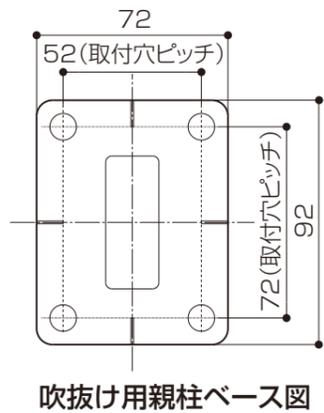
- ねじはテーパ付き側から固定します。



- ②1で決めた取付け位置に沿って、親柱ベース図の固定穴の位置に下穴(φ6mm)をあけます。
③コーチボルトに平座金(呼び径8)を入れ、4本のコーチボルトを床に取付けます。
④両面テープ(片面)のリケイ紙をはがし、親柱下部カバーをベースまで下げて固定します。

〈確認〉

- 親柱には向きがありますので、取付けの際にはご注意ください。(下図※印参照)



4 子柱の取付け

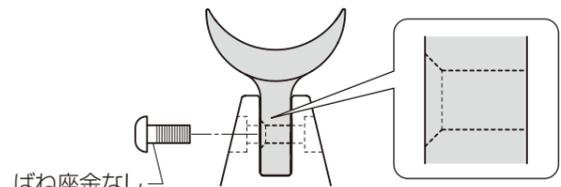
- ①子柱にラウンド用首振ブラケット(別売)をねじ(小ナベM5×12)で取付けます。



〈確認〉

- ねじはテーパ付き側から固定します。

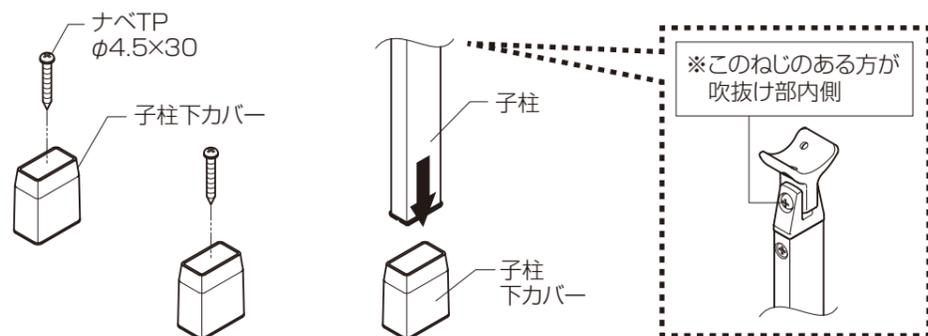
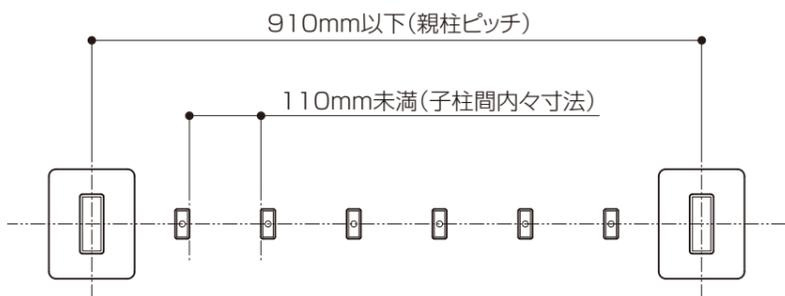
※誤って親柱用のばね座金付を使用すると、ねじが飛び出ます。



- ②2で決めた取付け位置に沿って下穴(φ3.5mm)をあけてからねじ(ナベTPφ4.5×30)で固定します。
③吹抜け用子柱を下カバーに差込みます。

〈確認〉

- 子柱には向きがありますので、取付けの際にはご注意ください。(下図※印参照)

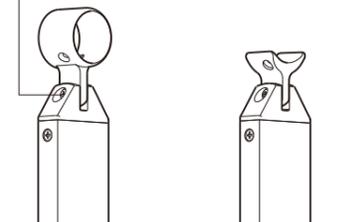


5 ラウンド手すり(φ35)の取付け

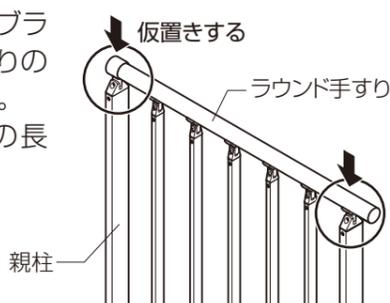
- ①首振ブラケットが全て水平になるように仮固定します。吹抜端部部材を端部となる親柱にねじ(ばね座金組込小ナベM5×12)で取付けます。



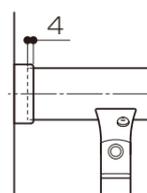
※このねじのある方が吹抜け部内側



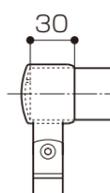
- ②ラウンド手すりを親柱の首振ブラケット部分に仮置きして手すりの寸法出しを行い、切断します。I、II、III、IVの納まりで手すりの長さが変わります。(下図参照)



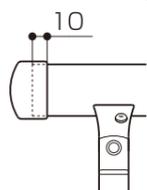
I. 壁納まりの場合 (エンドベースを使用)



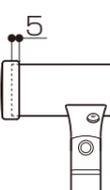
II. ブラケット納まりの場合 (吹抜端部部材を使用)



III. キャップ納まりの場合① (木製エンドキャップを使用)

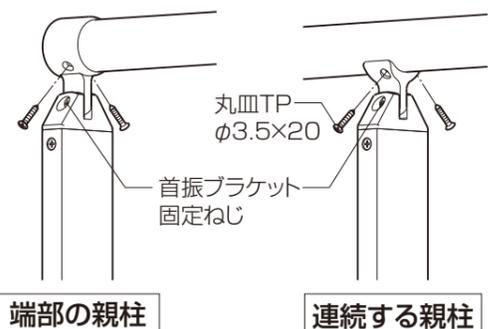


IV. キャップ納まりの場合② (金属エンドキャップを使用)



- ③ラウンド手すりに下穴(φ2.5mm)をあけ、首振ブラケットと、吹抜端部部材をねじ(丸皿TPφ3.5×20)で固定します。
④ラウンド手すり固定後、首振ブラケットを固定しているねじを本締めします。

※推奨トルク値: 1.4N・m~2.0N・m



〈お願い〉

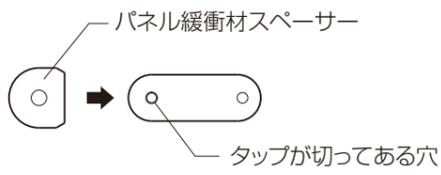
- ラウンド手すりと首振ブラケットの間にすき間が出ないように、両側から調整しながらねじを取付けます。

※エンドベース、木製エンドキャップ、金属エンドキャップの取付け方法は「手すりラウンドタイプ」の取付け説明書を参照してください。
※ラウンド手すりを接続する場合はP.11を参照してください。

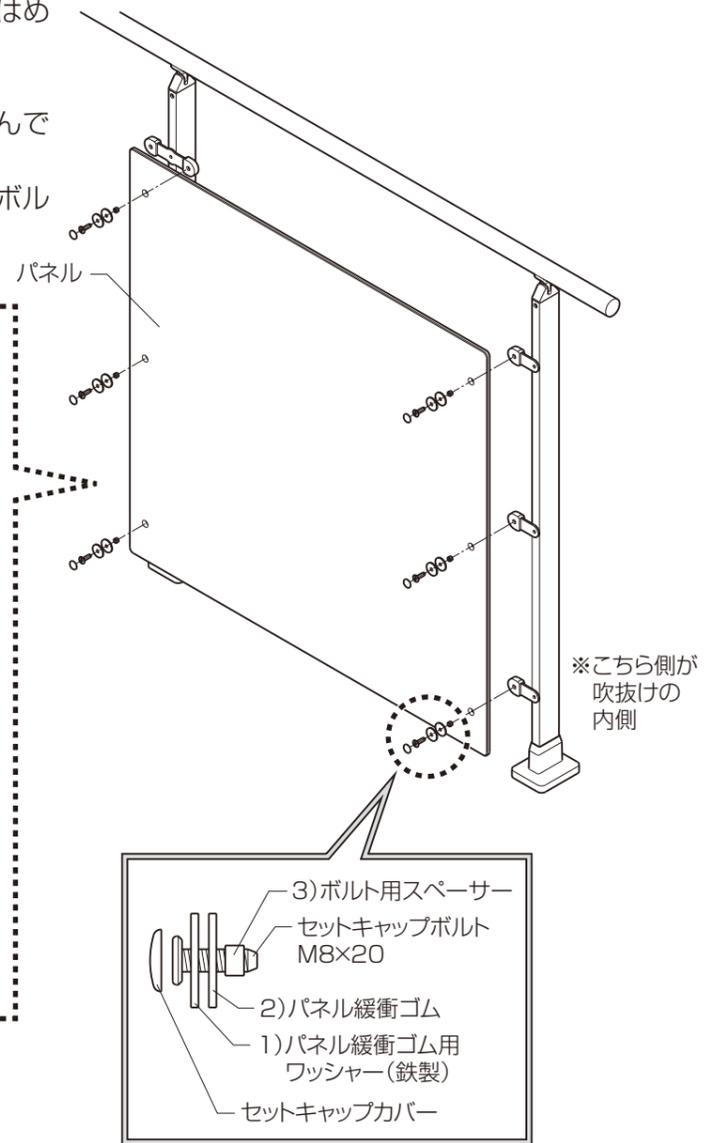
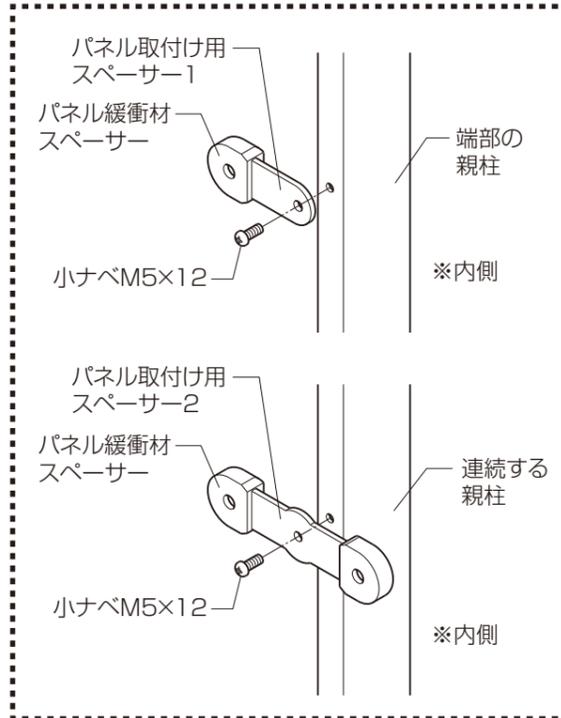
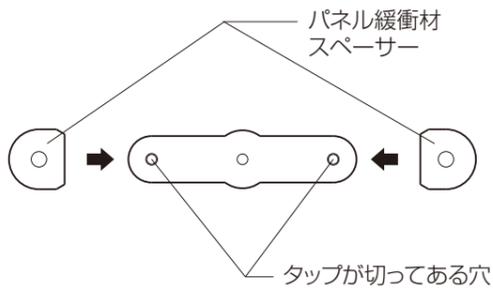
6 パネルの取付け

- ①パネル取付け用スペーサー 1、2のタップが切ってある穴にパネル緩衝材スペーサーをはめ込みます。
- ②親柱にパネル取付け用スペーサー 1、2をねじ(小ナベM5×12)で水平に固定します。
- ③セットキャップボルト(M8×20)に  枠の1)～3)を順にはめ込み、パネルを挟込んで固定します。
- ④パネルと親柱のすき間を見て位置調整しながら、ねじ(小ナベM5×12)、セットキャップボルト(M8×20)を本締めし、セットキャップカバーを取付けます。

●パネル取付け用スペーサー1



●パネル取付け用スペーサー2

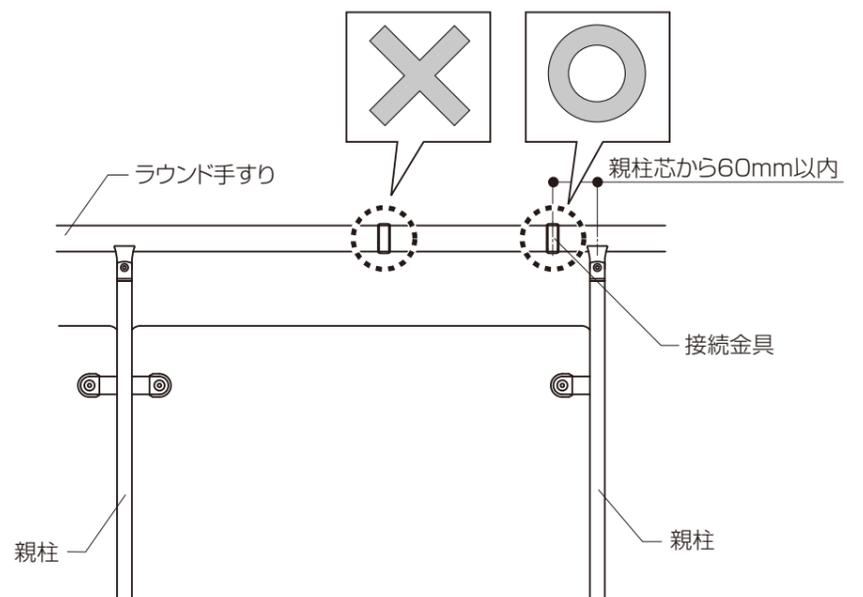
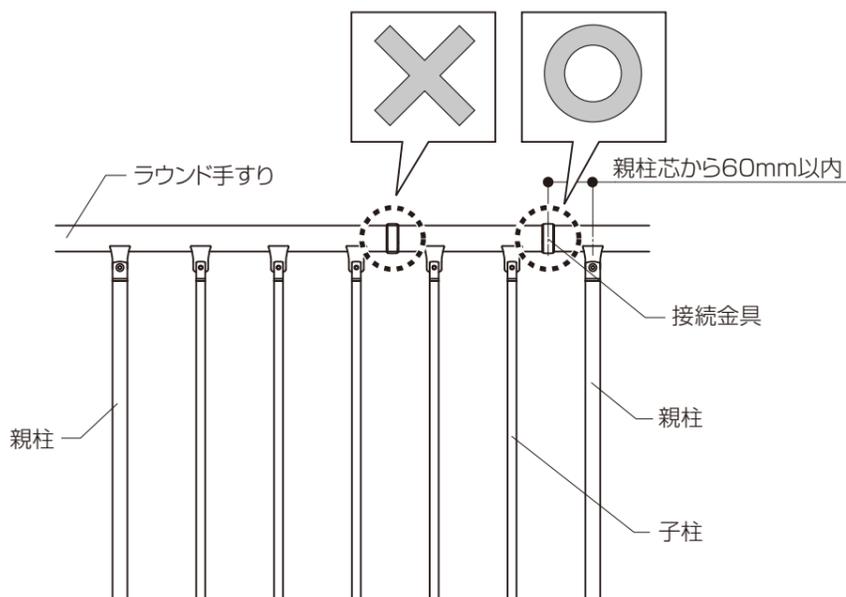


■ラウンド手すりを接続する場合

- 接続金具を使用して接続します。接続金具の取付け方法は「手すりラウンドタイプ」の取付け説明書を参照してください。

▲注意

- 接続金具は親柱間隔以内に1個を親柱芯より60mm以内に取付けてください。手すり脱落の原因になるおそれがあります。



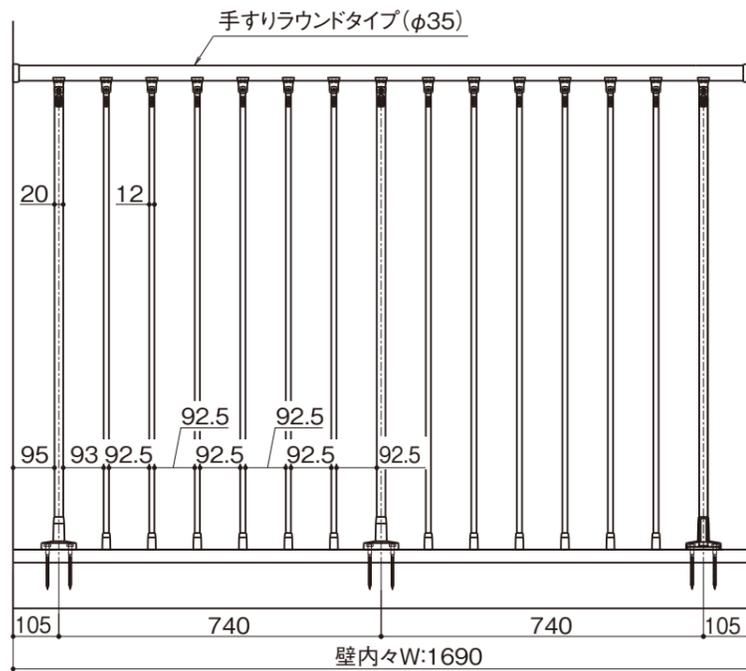
■取付け後の確認

- 施工が完了したら、手すりにガタツキがないか、ねじが確実に締結されているか確認します。
ゆるみがあれば確実に締直します。

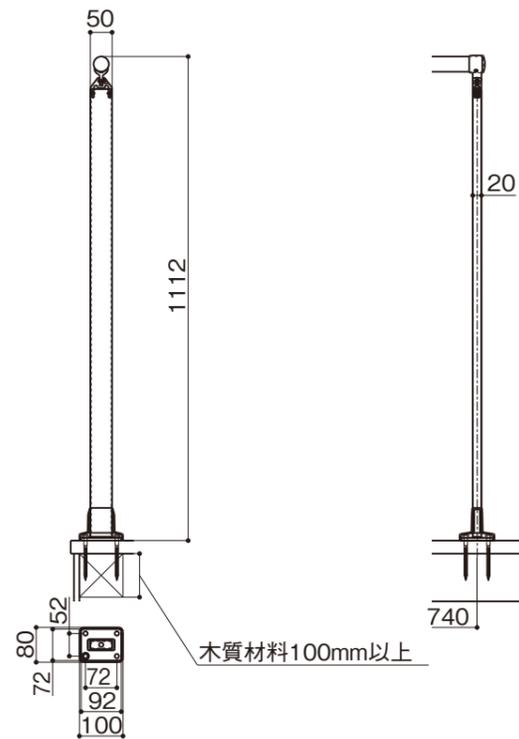
■参考納まり図

■縦棧タイプ

両側壁納まり

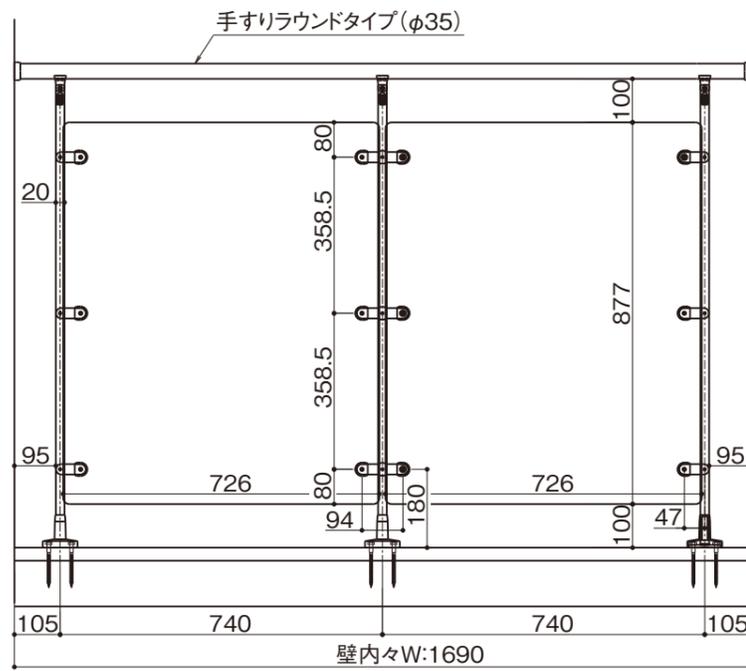


片側壁納まり



■パネルタイプ

両側壁納まり



片側壁納まり

